

Sacco のサービス 第三者の評価が好評

トラック業界では、環境への取り組みをはじめ、コンプライアンス経営が求められるようになって久しい。しかしながら、ホームページなどで紹介するケースはあるものの、その取り組みを社内外にPRする機会は決して多いとはいえず、荷主や世間一般に自社のイメージを伝えるのは、難しいのが実情だ。

こうした中、クライアントや従業員など、ステークホルダーへの取材を通じて、会社を第三者目線で評価し、SDGsなどの取り組みをWeb媒体で紹介するというサービスがでてきた。利用者からは、自社PRだけでなく、ステークホルダーとの関係構築に役立つと好評だ。

つと好評だ。

Sacco（加藤俊社長、東京都渋谷区）では、企業に対し、クライアントや株主、従業員といったステークホルダーが、その企業をどう思っているのかを取材し、第三者目線で企業を評価するサービスを手掛けている。

「自社を自分で判断するよりも、いつも身近にいるステークホルダーに話を聞いた方が、自社のことが理解できる」とし、「第三者目線によって、自社の強みが見えてくることも少なくな」と、加藤社長は指摘する。

さらに同社では、取材を通じて、その企業の例えばSDGsなどへの取り組みをピックアップし、自社のWeb媒体である「coki（コウキ）」

に、企業の専用ページを作成、広く情報発信している。「なかなか企業、とりわけ中小企業単独ではPRが難しい取り組みを、我々が代わって伝えられたら」と同社長は言う。

同社もともと社内報などの作成を手掛けており、その過程で、

会社の内情などを取材することも少なくなかったという。ステークホルダーを取材することで、その会社のこれまで見えなかった強みなどが見えてくることもあったという。

さらに同社が間に入って情報共有を進めることで、クライアントとの距離が縮まり、それまでの関係がさらに強固になることもあった。

ステークホルダーの取材を通じて、自社の評価や関係構築に役立つということを受け、事業化に踏み切ったと、同社長は話す。

同サービスは会員制で、ライト会員は月3万5000円で、ベーシック会員が同5万0000円、プレミアム会員が同10万円となっており、ステークホルダーへのヒアリングを通じてレポートをまとめたり、専用ページでの取り組みを紹介したり、さらには、会員同士のマッチングなどのサービスも行っていく。

加藤社長は、「ステークホルダーという第三者の声を聞くことで、自社を見つめ直す機会となることも、自社の強みを知る機会にもつながる」とし、「会員企業のつながりを大切に、広くPRしていきたい」と話している。

（高田直樹）



加藤社長